生物と無生物のあいだ

著者名	福岡 伸一	発行年	2007年
出版社名	講談社現代新書	ページ数	260ページ
値段	740円	ISDN	978-4-06-149891-4
コメント	ダイナミック・イクイリブリアム＝動的平衡。この着眼から社会というものをとらえてほしくて、この本を今期の冒頭に置きました。分子レベルで見た私たち生命体は、外界から隔てられた個物ではなく、たまたま密度が高いだけの分子のゆるい淀みに過ぎず、しかも絶えず高速で入れ替わっているそうな。生きているとは、いつも中身を入れ替え続けているということ。 「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」 そうなのか！　興奮しました。これは生命体の理解だけでなく、社会や組織といった「人のあつまり」を理解するときにも使える、と。興奮のあまり、ちょうど執筆していた江戸の町の政治についての論文に、この発想を応用してみたら新視点の開拓に成功しました（たぶん）。今年の夏のできごとです。 生命体の話としてでなく、社会や国家に応用できないかと虎視眈々たるスタンスで臨むと、社会工学的に実り多いかと思います。第９章だけでもぜひ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆☆	科学者が書いたにしては、日常の愚痴が・・・ モット　タイトルどおりの　生命と何か、無生物との間の ことを科学的に書いてほしい。			
	全部	260P (240分)		2009/02/20 20:24:19
世界のニシテツ ☆☆☆☆	生物と無生物の境目なんてあまり意識したことがなかった。自分は生物を履修していなかったのでよく分からない部分もあり難しかったが、面白かった。			
	1-134	134P (115分)		2009/02/20 12:51:45
鍋工房 ☆☆☆☆☆	僕は逆説が大好きです。 「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」 素晴らしい。 「市民に法律を守ることが意味があるような社会を守らせるためには、政治家は時に脱法的な手段をとる必要がある」 と同じくらい気に入りました。			
	全部	260P (290分)		2009/02/20 07:12:44
uk ☆☆☆☆	やはりこの世界は安定のもと不安定が刺激を与え構成されているのではないか。哲学的であるが…			
	100-285	186P (120分)	第9章	2009/02/19 21:39:04
かける ☆☆☆☆	PCRのDNAの特定の位置を複製する仕組みが理解できなかった。 知っていることがなければもっと楽しく読めたと思う。			
	ぜんぶ	285P (180分)		2009/02/19 19:40:10
ketume ☆☆☆☆	生物と無生物の境目なんて考えたこともなかった。読んでいくうちにはまってしまったが、最後の方はあまり理解できなかった。			
	all	260P (300分)	100-116	2009/02/19 11:53:20

継承者 ☆☆☆☆	こういう専門的な知識を得ていく本は好き。しかも内容が面白いし、何せ自分たちの体のことも。 研究者っていうのが、やはりよほど好きでないとやってけないとおもった。			
	1-134	134P (90分)		2009/02/18 14:12:58

前田 ☆☆☆☆	飽きないないうでした 秩序を守るために破壊するというのは逆説的だけどとても納得できるものでした 確かに社会などにも応用できるのかも と同時に人間の体ってよくできてるなぁって思った 研究のドロドロしている部分も垣間みれて単純に読んでて面白い本だった			
	1-260	260P (120分)		2009/02/16 20:37:29

Karagounis fan ☆☆☆	自分の体も分子の流れの淀みでしかない、のか。 不思議。生物学というより哲学という感じがした。			
	100-168,204-285	151P (100分)	138-143	2009/02/14 01:54:58

evolv ☆☆☆☆☆	研究者の死んだ鳥症候群。これを読んだ瞬間大学に残るのはちょっといやだなと思ってしまった。情熱を燃やして飛んで、美しく飛べる頃には、もう鳥は死んでいる。 研究者の生活というものすごく不透明だった世界を覗かせてくれる本。DNAの内容にしてもわかりやすく、生物を学んだことのある人にとっては懐かしいことが多い良作であった。			
	1-134，274-285	146P (120分)	研究者の実態が書かれたところらへん	2009/02/14 01:47:49

BLOWIN' ☆☆☆	話題の本。ということで手にしてみたが。 なかなかと考えさせられる内容であった。			
	1-200	200P (120分)		2009/02/13 00:12:37

besevener ☆☆☆☆	専門的だったけど面白かった。機会があったら最後まで読みたい。			
	1-100	100P (90分)		2009/02/09 07:45:51

funza ☆☆☆☆	生物と無生物の間を図書館で借りて読みました。 しかし、私が読んだのは50年前に川喜田愛郎先生によって書かれたものです。まったく別の本だと今気づきました。悔しいから、川喜田著の『生物と無生物の間－ウィルスの話』の感想を書きます。 単純に、面白かったです。この本は、ウィルス学の歴史を分かりやすく教えてくれます。その後、ウィルスは生物か無生物かという話になります。50年前というのは、ウィルス学の黎明期で当時なりの考えが分かるのではないでしょうか？ 最近の『生物と無生物のあいだ』の方もそのうち読みたいと思います。			
	1-221	221P (120分)		2009/02/07 16:27:59

弟子 ☆☆☆☆☆	文章の内容が二転三転するため、濫読をした箇所によってまったく感想の変わりそうな一冊。 すべての物質を構成している「分子」というものは本当に小さいものである。そのことを教科書を読んで知っていたとしても、模式的に描写された絵に慣れすぎていて、それを「どれくらい小さいのか」と意識できる人はあまりいないのではないのだろうか。 この本を読めば、「分子」というものがいかに小さいのか、シュレーディンガー風に言えば、私たちは以下に大きいのかが体感できる気がする。			
	all	260P (90分)		2009/02/03 15:43:51

so ☆☆☆☆	分子が小さいのに対して人はなぜこんなに大きいのかのシュレジンガーが説明していたとこが特によかった。他のとこも面白かったけど、別に興味ない内容もいくつかあったのが残念。			
	1-176	176P (200分)		2009/01/28 00:39:28

sweets ☆☆☆	野口英世に関するくだりは、読む価値あり。			
	all	260P (120分)		2009/01/27 15:32:54

DNA ☆☆☆☆	なんか流し読みしてしまった。			
	1-260	260P (125分)		2009/01/27 15:01:20

kabadie ☆☆☆☆☆	人間とは、生物とは、ということを考えさせられた。			
	1-260	260P (240分)	167-180	2009/01/21 01:08:48

下阪神 ☆☆	読んではみたもののあまり興味深い内容ではなく、無駄に時間がかかりすぎてしまうほどだった。			
	1-260	260P (350分)		2009/01/15 14:00:07

☆ ☆☆☆	生物について強い興味を持っていなかったが、そういう人でも興味を持てるような小話も多く取り入れられ、割と読みやすかった。 でも、やっぱり生物に対して強い興味は持てなかった。			
	1-140ページ	140P (180分)	題名	2009/01/15 11:53:00

ザルカヴァ ☆☆☆☆	研究者は楽ではないよっていう話。将来研究者を目指す人は一読すべきです。			
	83-99	17P (10分)		2008/12/19 11:46:22

自由教育 ☆☆☆☆	砂の城と同じように人の体も、流れが作り出した「効果」として存在する実体のないものなのだろうか。とても不思議な感覚にとらわれる。			
	13-237ページ	225P (100分)		2008/12/01 19:22:11

上場亮 ☆☆☆☆	読んでみたけどあんま興味無いね			
	全部	260P (300分)		2008/11/25 00:01:10

david wright ☆☆☆	マニアックな話だった			
	1-50	50P (775分)		2008/11/24 13:30:13

マシュ ☆☆☆☆	機械と生物の違いがよく分かり、動的平衡という概念がとても面白いと思った。あとＤＮＡの二重螺旋構造の発見のあたりが読み物として面白かったです。 また、大学に残ってずっと研究を続けていくというのは、本当に興味と情熱がないとやっていけないのだなと思いました。			
	全部	260P (360分)		2008/11/24 01:40:20

Ian ☆☆☆☆	思ったよりも専門的な話だったが、とてもスムーズに読むことができた。生物は機械ではなく、もっとダイナミックなものであるということがよくわかった。			
	1-260	260P (300分)		2008/11/14 00:43:33

joker ☆☆☆	話題本。面白いかどうかは別として、売れるのはわかる気がします。 これが好きな人は、新書で出ている「非線形科学」なんかも面白いかもしれないですね。			
	1-260	260P (120分)		2008/10/20 13:59:29

heat-active ☆☆☆☆☆	生物を機械のようにみなしていたけれど、考え方が変わった。 たとえば、テレビの部品がなくなればそこに対応した部分が機能しなくなるけれど、生物は・・・ 読みやすいので生物専攻でない人も一読されてみては？			
	1-260ページ	260P (400分)	261-272ページ	2008/10/18 01:00:57

ミニブタぽん ☆☆☆☆☆	プロローグを読んだだけで生命の偉大さを感じた。わくわくした。			
	1-260	260P (360分)	1-5	2008/10/16 00:25:54

ＴＯＰへ

銃・病原菌・鉄　上・下

著者名	ジャレド・ダイアモンド	発行年	2000年
出版社名	草思社	ページ数	619ページ
値段	3,800円	ISDN	978-4794210050
コメント	人類の文明の始まりを地球規模でとらえるという大技をみごとに成功させた記念碑的達成。 大陸がタテに長いか横に長いか、そんな小さな偶然が人類の発展史の根幹を定める！　あざやかな洞察。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
弟子 ☆☆☆☆	同じ著書である「文明崩壊」でも同じことが言えるのだが、この筆者のプロローグの書き方、その見せ方には感嘆の一言である。本全体の始まりとしては少々長いが、この本がどのような意図のもとに書かれていて、この本はどのような体験について描写していて、この本のどこに何が書かれているのかが一読で全て分かってしまう文章である。「濫読を始める前の精読」をすべきところであると思った。ちなみに個人的には「文明崩壊」のプロローグの方がすきだけど。			
	16-45	30P (15分)		2009/02/20 05:21:36
ベル ☆☆☆☆	免疫・病原菌の話の導入がおもしろい。 病気に対する見方がちょっと肯定的になりました。ありがたいとまではいかなくとも。			
	289-317	29P (10分)		2009/02/18 22:47:25
monkiti ☆☆☆☆☆	とても理論的な本でした。なぜシマウマは家畜にならなかったか、なぜカバは家畜にならなかったか、代表的な動物なのに普段そんなこと考えたこともなく目から鱗だった。さらに、そのことが、文明の形成に影響したりしていることが興味深かった。余談ですが、これは短時間じゃ読めないと思い、上下巻とも購入しました。たっぷり時間をかけて読めなかった所を読もうと思います。			
	上133-261	129P (70分)		2009/02/18 21:55:54
Karagounis fan ☆☆☆	あんな事例から真面目な病原菌の話に入るとは・・ 時間があればちゃんと最初から読みたいな。			
	上233-261,288-317	57P (30分)	上289-290	2009/02/18 10:45:04
ヒトラー ☆☆☆	人類の環境の違いによる文明の発達の違いの話。 ただ少し量が多かった。			
	上1-120下1-46	166P (120分)		2009/02/16 09:07:29
kazuki ☆☆☆☆	興味深いことが結構書いてあるが、回りくどいのでちょいちょい飛ばし読みするといいかも。			
	上全部　下47-83	350P (210分)		2009/02/15 00:36:53
evolv ☆☆	読む場所が悪いのか？ 後半がおもしろいのか？ どうして高評価なのが私にはわからない。読み直してみようかな。 でもな～			
	1-30	30P (20分)	タイトル	2009/02/14 02:09:14

besevener ☆☆☆	あまり自分には合わなかった。			
	1-100	100P (90分)		2009/02/09 07:48:55

うみねこ ☆☆☆☆	あまりにも本の量が膨大だったので、読みたい章だけ読みました。スペインのピサロの話は普通に物語として面白かったです。だけど、他のところは学問っぽい感じで読むのが大変でした。個人的に食生活などの文化史は興味があまりなかったのでダメでした。			
	上1-30,99-119	51P (60分)		2009/01/31 14:52:47

heat-active ☆☆☆☆	あまり読むことができなかったけれど、人種による優劣という観点ではなくどの人種も現在に至るまでどう発展してきたかという平等な視点から考察しているところが良い点であると思った。			
	上16-75, 122-145ページ	84P (55分)	上29-32ページ	2009/01/31 12:44:38

クマー ☆☆☆☆☆	１６世紀にスペイン人がインカ帝国を征服できたのは「銃、病原菌、鉄」のおかげであった。これは指摘される点でもある。本書はさらにそこから一歩進んで、「なぜインカの人々は「銃、病原菌、鉄」を持っていなかったのか？」と問いを進める。言い換えれば「スペイン人はなぜそれらを持っていたのか」と問うこともできる。 歴史というのは「物語的」に語られることが多いが、本書は一貫して「科学的」たろうとして歴史を語ろうとする強い意志が感じられる。 病原菌が家畜を介して進化し、それが征服する上での重要な点になると語っているところが面白い。決してヨーロッパの人々の方が知的で優れていたから征服できたのではない。病原菌の方が決定的なのだ。下巻の最後で語られる「歴史科学」についての話も面白かった。 理系のための歴史学といえるかも。			
	上1-下332	600P (60分)	上288-317、下297-332	2009/01/13 14:54:41

forex ☆☆☆☆	どうして地球上の各文明にこれほどの差が広がったのかを書いた作品。 特に立ち読みポイントに記した賞では少数のスペイン人がどうして絶対多数のインカ帝国を攻略できたのかが書かれていてとてもおもしろかった。 世界史の知識が無くても事例について十分な説明がついているのですんなりと読むことができた。			
	1-198ページ	198P (180分)	上99－119	2008/12/01 09:59:54

ザルカヴァ ☆☆☆☆☆	論理的で興味深い内容だった。動物好きにはたまらない。			
	上233-261	29P (20分)	２３３－２６１	2008/11/06 08:39:33

ＴＯＰへ

文明崩壊　上・下

著者名	ジャレド・ダイアモンド	発行年	2005年
出版社名	草思社	ページ数	781ページ
値段	4,000円	ISDN	978-4794214645
コメント	栄えたものは必ず滅ぶ。それぞれの文明の滅びの要因を環境との関わりで広く深くとらえるジャレドの史眼の冴えにうなずきつつ、すべてがレクイエムのように聴こえて、どこか悲しい。 モアイ・ピトケアン・アナサジ・マヤ・グリーンランド……最新の考古学がとらえた滅びの諸相を〈宿命〉と受けとるか〈警鐘〉と受けとるかは、読み手次第。 大著だけれど、１章だけでも、じゅうぶんに分かる。じゅうにぶんに刺激的。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
弟子 ☆☆☆☆☆	プロローグの入り方が何より魅力的だった。本当に人を引きつけて魅せる様な文章だった。 きちんとした文体で、歴史を物語のように語るのでは無くあくまで事実ベースの文章を組み立てて此処までの本を書いて、もしくは練っていくのは、相当な根気が必要だろう。その作業を、全く歴史的観点に対する姿勢を崩すことなく一貫して守りながら行っていることを想像して、この本に筆者の深さを感じてみた。			
	12-43	32P (20分)		2009/02/20 05:30:02
ベル ☆☆☆☆	イースター島の絶滅は私たち人類の前途のメタファーだとか。 論点がぶれないので集中してよめました。			
	123-190	68P (50分)		2009/02/18 22:49:51
TAK ☆☆☆	失礼ながら表紙読みです			
	1	1P (1分)		2009/02/16 18:56:33
ヒトラー ☆☆	長くて先に進む気がおきませんでした。			
	上46-67 下60-86	47P (30分)		2009/02/16 09:14:40
forex ☆☆☆☆☆	この人は歴史を生物学など様々な観点から眺めてそこから普遍的な歴史の真理のようなものを導き出すからおもしろい。 立ち読みポイントはグリーンランドに入植したバイキングの滅亡について触れた部分であるが、今現在地球上でもっとも成功しているといえるヨーロッパ人でも滅びるときは滅びるということがわかっておもしろい。 ただ、グリーンランドやイースター島の事例を持ち出してそれを現代社会への警鐘とするのはどうかと思う。なぜならば地球全体は閉じた空間でありその中を炭素や酸素が循環しているが、島は開放された空間であり、炭素や酸素は木々などがすべて伐採されて燃やされると、二酸化炭素となり島の外へと漏れ出ていくからである。同列には語れないと思う。			
	上1-435	435P (360分)	上334-430	2009/01/02 22:19:55
david wright ☆☆	長かった			
	1-781	781P (420分)		2008/11/30 09:35:02

クマー
☆☆☆☆

ハーバード大学で生物学、ケンブリッジで生理学を修めた著者による文明論。
科学者が歴史を語るとこうなるのだなぁと面白く読んだ。
上巻の293頁で化学の「自己触媒作用」の概念を用いてヴァイキングたちの急速な活動の高まりを説明している。歴史科学というものがあるとすればこういうものなのだろうなぁと思った。
文明の崩壊を論じてるのだが、最後に述べられるように著者自身は「慎重な楽観主義者」だと語る。この姿勢は学びたい。

上267-333,下361-368	50P (5分)	293-296	2008/11/04 15:00:55

ＴＯＰへ

古代文明と気候大変動

著者名	ブライアン・フェイガン	発行年	2008年
出版社名	河出文庫	ページ数	378ページ
値段	950円	ISDN	978-4309463070
コメント	静かに溢れた北アメリカの湖が海流を変え、ヨーロッパに大干魃を起こし、農耕文明の端緒を開く。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み先史編。原題：The Long Summer		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆☆	本書は文藝春秋の特集記事、必読書二百冊の一冊に選定されている。 ただし、決して平易な内容ではないし、文庫本とはいえ読みこなすのには相当の気力がいるだろう。 人類の文明は自然に翻弄されてきた歴史であり、また数万年レベルで見れば地球の気象状況が大変動を遂げてきたことが理解できる。 本書を読めば、現代文明がいかに脆弱なものであるか、思い知ることだろう。また、歴史的には警戒すべきは寒冷化（氷河期）であって、温暖化ではないことも明らかとなることだろう。			
	全部	378P (300分)		2009/02/20 20:52:08
evolv ☆☆☆	読むべき場所は華麗なタイトルとサブタイトル。どうしても単発コラム形式になってしまう文章は読んでいて流れに乗れない。 古代文明に興味がある娘でも口説くときに雑学としてどうですか？			
	1-50	50P (60分)	目次	2009/02/20 00:53:59
Karagounis fan ☆	つまらなくて挫折しました。 こういう説明ばっかりの苦手でした。			
	38-84	47P (40分)	なし	2009/02/17 11:57:13
ヒトラー ☆☆☆☆	温暖化に興味あるので読んでみた。地球の偉大さをかんじ割と夢中になって読めました。			
	1-229	229P (150分)		2009/02/15 22:18:17
chor ☆☆	名前負け？			
	74-134	60P (30分)		2009/02/06 21:36:31
!? ☆☆☆	やっぱ本は題名で選んではいけないと思った。			
	1-71	71P (30分)		2009/01/28 11:29:45
下阪神 ☆☆	何か頭でっかちな本のような気がした。 原作を読んでみたくなったけどこれは読み勧められる気がしなかった。			
	1-40	30P (60分)		2009/01/26 18:05:51

弟子 ☆☆	どう考えても原題がすばらしいのに･･･　なんかもったいない気がする 挿絵や図、表だけを見るととても面白そうな本。大切なことなのでもう一度繰り返すと、面白「そうな」本。 専門的な内容は読んでいて面白いのだが、いかんせん文体がいまいち。時にストーリーを作って読ませては、また今度は原題の専門家の視点から見てみたりと、どうにも忙しい模様。話の内容も上下して、どこに収束したいのかがいまいちよくわからないまま読んでいき、そのまま終わってしまった感じ。なんとも微妙だった。			
	74-134, 230-260, 330-343	106P (40分)	挿絵、図、表	2009/01/19 12:33:03
うみねこ ☆☆	話の内容が歴史の教科書を読んでいるようなかんじで、難しくあまり面白くなかった。			
	1-38,351-377	65P (60分)		2009/01/12 04:34:21
ri-si- ☆☆☆	途中で放棄してしまいました。 暇な人はどうぞ			
	1-18	18P (10分)	・・・	2008/12/18 06:31:39
上場亮 ☆☆☆☆	自然には絶対人間はかなわないし、このまま開発が進んで 自然をなめていたらいつか人間の不利益に必ずつながると思った。			
	全部	378P (180分)		2008/12/04 23:48:52
david wright ☆☆☆	自然は怖いと思った			
	1-50	50P (20分)		2008/11/30 09:38:35
マシュ ☆☆	マヤ文明などの古代文明について書いてあったら面白そうだと思ったが、ちょっと創造と違ったような内容でした。			
	10-37 , 351-358	36P (30分)		2008/11/29 18:05:50
kate ☆☆☆	どんなに文明が発展しても自然災害には勝てないんだと思った。			
	10-118,230-377	257P (150分)		2008/11/18 10:37:48
takuto ☆☆☆	自然と気候の事象についてこと細かく説明されていた。 地理にはわりと興味があるので面白い箇所も何個かありました。			
	39-134	96P (120分)		2008/11/11 12:03:20
自由教育 ☆☆☆	自然に対して人類はとても小さい存在である。繁栄した文明があっけなく崩壊した原因の一つは自然災害だった。			
	294-377ページ	84P (60分)		2008/10/29 23:10:20
非食用もやし ☆☆☆	何やら深刻に気候の変動について話してくれると期待してたら、そこまで深刻な話にならなかったので途中挫折。 う～ん、個人的には微妙な評価です。			
	39-71	32P (30分)		2008/10/22 19:49:46

ＴＯＰへ

壁画洞窟の音

著者名	土取利之	発行年	2008年
出版社名	青土社	ページ数	169ページ
値段	2,200円	ISDN	978-4791764280
コメント	３万年も昔の「音」を追い求めている学問があるなんて。 ラスコーにアルタミラ。動物の壁画が描かれたヨーロッパの洞窟にもぐって、音の反響具合を計測する。すると！　ほら、こう歩いてきて、あのパイソンの絵と目が合うあたりが、いちばん男の声が反響する場所なんだ。クロマニヨン人たちにとって、この洞窟は静かな美術館なんかじゃなく、自ら楽器を奏で、あるいは床や壁の石筍を叩いて、神の音に心ふるわせる魂のコンサート会場だったんだよ。 著者は学者ではない。パーカッショニスト。それもまた聞きどころ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
monkiti ☆☆☆	文章だけじゃわからないので、現地に実際に見たり、聞いたりしに行きたいです。			
	10-46,54-68	52P (30分)		2009/02/19 10:17:48
かける ☆☆	自分の経験の話を進めていく英語圏のような構成は苦手です。要点をまとめてほしい。			
	1-20	20P (15分)		2009/02/18 16:10:35
BLOWIN' ☆☆☆	うん。まぁ、一度は自分の耳で聴いてみたいかな。			
	144-154	11P (10分)		2009/02/16 22:58:03
ザルカヴァ ☆	残念ながら興味が持てなかった。自分には読みづらく感じた。			
	10－16	7P (5分)		2009/01/26 15:11:32
david wright ☆☆☆	絵が多いから読みやすかった			
	1-50	50P (15000分)	50	2009/01/13 18:02:36
弟子 ☆☆☆	何かしら学問や思考対象があれば、どうやらそこにはいつのまにか芸術（アート）と言われているものが付随してくるものらしい。数学の世界の住人にとってオイラーの等式は芸術たりうるらしいし、古文の世界だとおそらく源氏物語は芸術といって差し支えないだろう。チェスというのは競技でありスポーツであり芸術であるって誰か言ってたし、何も演奏しない楽譜もまた芸術であるらしい。私は未だに写真が芸術と呼ばわれているのは理解に苦しむが、墨で文字を書いただけで芸術であるくらいである、きっと考古学にも芸術というものが存在しているのではないか。 そんな本。考古学という聞くからに地味そうな学問に、音楽という要素を足し加えることによって芸術というものが見えてくる本。きっとこんな本。			
	10-41,144-156,	55P (20分)		2008/11/25 00:22:10
snsk ☆☆☆	音楽を洞窟で奏でる。 音についての詳しい説明や図がたくさん載っていたが、実際に音として聞くことができないのが残念だ。			
	1-142	142P (60分)	第４章	2008/10/28 23:24:28

クマー ☆☆☆☆☆	音楽家（パーカッショニスト）による音楽の起源に迫る意欲作。 前半の洞窟で音楽を響かせるまでのくだりが面白い。音楽家だけあってか文章表現が詩的だったりして読んでて心地よい。洞窟の写真や壁画の図版などもあって見てて楽しい。			
	1-190	150P (90分)	144-154	2008/10/14 14:39:34

ＴＯＰへ

ローマ人の物語　ハンニバル戦記　上・中・下

著者名	塩野七生	発行年	1993年
出版社名	新潮文庫	ページ数	581ページ
値段	1,200円	ISDN	978-4101181530
コメント	カンネからザマへ。戦術の天才ハンニバルが、ついにその牙を折られる時が来る。あれほどに鮮やかな包囲全滅作戦をあまた成功させてきた男が、まさにその同じ技を敵のスキピオにかけられて。 「ハンニバルの不幸は、優れた弟子が敵方に出てしまったことであった」（下巻83ページ） ドラマティックな記述は一行もない。なのに、男たちの覇気と無念が、ありありと迫る。加えて、政治の要諦についての、本質を衝いた洞察。おじさんたちの愛読書ナンバーワンであるのもうなずける。ただ、そこは社会工学生たるもの、批判的に読まないと（蛇足ながら、この批判的スタンスは、同じくおじさんたちの愛読書である司馬遼太郎先生に対する時も必要）。 紀元前。ほんとにほんとに遠い昔の昔の象部隊のとどろきに思い馳せつつ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
弟子 ☆☆☆☆	船を担いで山を登るシーンを期待したが、あれは別の話だったっけか。 表面上はただ歴史上のことを並べ書いてあるだけなのに、塩野さんの歴史に対する考え方がありありと伝わってくるように感じる。しかしそれは文章に筆者の色が出ているわけではなく、あくまで語っていることは史上の年表である。それでも、どことなく塩野七生という筆者の感情がにじみ出ている気がした。			
	176-205	30P (10分)	176-177	2009/02/20 05:43:35
evolv ☆☆☆☆	いきなり下から読むのはさすがに無謀か。内容がよくわからんと言うよりも、登場人物とか前の戦術が暗黙の了解であのときと同じと言われてもこちらはちんぷんかんぷん。しかし、それでもエンディング周辺の下巻は物語もおもしろくなっている所です。 カエサルにダマされた人はこっちがおすすめです。			
	下100-180	81P (50分)	上？	2009/02/20 00:57:45
uk ☆☆	筆者の文章は読んでいて個人的に飽きてしまう感じを受けた。 世界史でハンニバル線きのこと走っていて興味があったのだが残念である。			
	下14-136	123P (150分)		2009/02/19 21:44:48
ketume ☆☆	ハンニバルのすごさがわかる前に飽きて読むのをやめちゃいました。			
	上24-50　中14-66 下14-50	117P (30分)	上24-50	2009/02/19 12:00:45
heat-active ☆☆☆☆	一見、無謀なことをしているようで実はしっかりと戦略を考えているハンニバルであり、読み進めていくうちとてもわくわくしてきた。これだけの難局でもハンニバルについていった兵士もすごいと思う。			
	中12-101	90P (10分)		2009/02/19 08:55:23
前田 ☆☆☆☆	ザマの戦いのところまで読んだがおもしろかった 歴史上１０人の名将に入る二人の戦いは知略同士のぶつかり合いに興奮した ここだけでも映画化されないかなと思った			
	中1－130	130P (60分)	ザマの戦い	2009/02/16 20:41:39
kazuki	上を多少読んだほうがよかった。			

☆	中1-120ぐらい	120P (40分)		2009/02/13 01:16:54

besevener ☆☆☆	ちょっと読みづらかった。			
	1－100	100P (90分)	100	2009/02/09 08:19:01

下阪神 ☆☆	何かSFの世界に迷い込んだような感覚だった。 固有名詞が多くて大変			
	上1-88	88P (60分)		2009/02/04 12:19:45

forex ☆☆☆	教科書で五行で終っている出来事を深く語るのがこの本の趣旨なのだそうだ。私も歴史はプロセスにあると思う。歴史がただの偶然の積重ねだとは到底思えないからだ。			
	1-16	16P (10分)	なし	2009/01/14 20:34:41

kate ☆☆	想像してたのと違った。			
	18-69	52P (50分)		2008/11/25 15:09:14

ザルカヴァ ☆☆	どうにも世界史的で読みづらかった。性にあってないのかも。			
	上1-34	34P (15分)		2008/11/17 00:28:56

kabadie ☆☆☆☆	ハンニバルのローマ人の想像を超える行動、作戦が痛快。しかし前半のローマの海上の戦いも捨てがたい。			
	上全部～中100	300P (300分)	なし	2008/11/07 00:38:33

david wright ☆☆☆	ハンニバルがつよかった			
	下巻	207P (90分)		2008/11/02 23:55:56

うみねこ ☆☆☆☆	上巻は、史実をただ書きつづけているだけで、つまらなかったが、ハンニバルが登場してからは、かなり面白かった。			
	上1-88 中1-262	350P (200分)	中109-116	2008/10/21 02:34:53

!? ☆☆☆☆☆	ローマの制度が面白いと思った。あと、ハンニバルがすごかった。			
	全部	581P (180分)		2008/10/17 16:01:32

ＴＯＰへ

ローマ人の物語　ユリウス・カエサル―ルビコン以後　上・中・下

著者名	塩野 七生	発行年	2004年
出版社名	新潮文庫	ページ数	718ページ
値段	1,314円	ISDN	978-4-10-118161-5
コメント	壮年期にますます輝く。歩兵は敵の半分、騎兵に至っては七分の一。この戦力でどうやって勝つのか。ＢＣ48年８月９日ファルサルス平原。カエサル、ときに52歳。上巻145ページからスタートして100ページがかりで叙述される、この対ポンペイウス戦が、まず最初の読みどころ。 そして「来た、見た、勝った」（中巻冒頭）。一度は言ってみたいかも。 それにしても塩野さん、カエサルに惚れ込んだのと引き替えのように、クレオパトラへの筆はずいぶんと冷たいのですね。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
弟子 ☆☆☆	『ブルータス、おまえもか！』のシーンが見たくて下を借りたのに、思いのほか劇的じゃなかった。 良くも悪くも、『お話』ではなくて『歴史小説』だなあと感じました。塩野氏の文章の書き方がお話よりは歴史小説、歴史小説よりは歴史の教科書っぽいので、それはそれで面白いのですが、やっぱりカエサルの最期のシーンくらい、ドラマチックに見てみたかったなあと。			
	13-44	32P (15分)		2009/02/20 05:48:26
TAK ☆	表紙読みです。			
	1	1P (1分)		2009/02/16 18:52:48
forex ☆☆☆	戦争をしていた当時の緊迫感のようなものが本から伝わってきた。 昔も今と同じように何かをやるにしても政治的なしがらみとかいろいろあって、カエサルもなかなか大変だなと思った。			
	1-18	18P (20分)	なし	2009/01/12 00:59:35
heat-active ☆☆☆☆	カエサルがファルサス会戦の戦略を自分の頭で考えて勝利したところに自分が本当に見習っていくべきことを見出しました。ノンフィクションであるにも関わらず楽しみながら読めたのは文章のおかげです。			
	上145-284ページ	140P (65分)	上239-259ページ	2008/12/30 21:06:16
evolv ☆☆☆	歴史本という印象ですね。有名人過ぎて、何にも知らない人っていますよね。彼がローマに関係していて、彼の名台詞も知っているけど、結局何した人なん？という疑問に答えてくれる本。 しかし、あまりのも多くのことを成し遂げた彼のことをすべて知ろうとするのは、元々高校の歴史が苦手な私にとっては、完読は到底無理な話。 立ち読みなら、クライマックスな下がいいのかな？			
	上17-106	90P (30分)	87	2008/12/04 01:10:38

ＴＯＰへ

旧約聖書のゲーム理論

著者名	スティーブ・J・ブラムス	発行年	2006年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	353ページ
値段	2,800円	ISDN	4-492-31368-0
コメント	なんてこと。ミステリアスであるべき聖書が、ゲーム理論でスパスパ切れちゃう。 この実を食べてはいけないよ。アダムとイブに警告するべきか否かが神様の選択肢。警告に従うべきか否かがアダムとイブの選択肢。ええっと、利得表にしてみよう、ツリーで書いてみよう。さあて支配戦略は？ そんな具合にカインとアベルが、十戒のモーセが、いろんなパターンのゲームを神様まじえてプレイする。いやもう、もし魔女狩りの中世に、こんな本を書いたなら、火あぶり八つ裂き間違いなし。 でも、キワモノではありません（きっと）。へぇ、こういう切り方もアリなのか、と社会や人間関係のとらえかたのサンプル集を眺める気分でどうぞ。何でも言葉で契約したがる聖書の世界は、あんがいゲーム理論的分析になじみやすいのかもね。 ちなみに著者のブラムスさんは、某M先生のお知り合いとか。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆	単純な「利得表」で旧約聖書の数々のエピソードを分析した一冊。 旧約聖書に限らず、他の物語にも応用できそうで、可能性の広がりを感じました。 読んでいくうちにキリスト教の知識もついてきて勉強になりました。			
	全部	353P (260分)		2009/02/20 20:29:21
かける ☆☆	アダム／イブと神様のひとゲームで満足してしまった。			
	p1-33	33P (40分)		2009/02/18 16:02:49
joker ☆☆	聖書の研究とか宗教色ばりばりな研究者って意外といるものですね。本学にも助教で確かテキスト分析していたひとがいたように思います。 きっと、聖書を好きなんだなって思いました。笑 その接点のひとつとして彼はゲーム理論で取り組んでいる。つまりそういうことでしょう。			
	1-353	353P (130分)		2009/02/16 13:37:54
下阪神 ☆☆☆☆	所々難しく、少々読むのに時間がかかってしまったが、大変興味深い内容だった。 聖書は読んだことがなかったが、あの聖書の中身がこんなに単純なゲームで解明できるなんて驚いた。 何て言うんだろ。 古代の人って無茶苦茶合理的だったんだなと。 自分はクリスチャンじゃないので聖書で「神が～」ってのは全部人間の仕業だと思っているから「古代の人」ですよ。			
	全	353P (400分)		2009/01/26 18:06:36
funza ☆	社会工学科でゲーム理論を学ぶものとして、押さえておきたいところでしたが、自分には無理でした。 というか、キリスト教やら聖書やらの前提知識がないとつらい気がした。外国のキリスト教徒の人が書いたんだろうな			
	1－10	10P (20分)		2009/01/20 13:11:40

上場亮 ☆☆☆	ゲーム理論を勉強した上で読むとまあまあおもろいけど、 ただのペーペーが読むとクソみたいな本やと思う。			
	1-353	353P (180分)		2008/12/31 02:33:26

david wright ☆☆☆	おもしろくなかった			
	1-353	353P (180分)		2008/12/07 11:24:00

forex ☆☆	読んでみて思ったのはゲーム理論というのは結局どの行為がどれだけの利益をあるプレーヤーに与えるかを決めるのに主観が入り込むため、その主観によっていかようにも結果を決定することができてしまう理論ではないかということだ。 そういう意味では私にはこの本はあまり面白くは感じることができなかった。			
	1-100	100P (120分)	13-52	2008/12/06 18:56:37

弟子 ☆☆	ぎぃーぶあーっぷ　ムリだ 前提知識がある程度あってもいろいろとムリでしたゴメンナサイ。 利得表の数値がなんでそれなのと思われるようなものだったり（「死ぬ」と「屈服する」が同じ数値とは思えない）、カインは殺人を認めたくも認めなくもないというアンビバレントな状況だったりと、あまりにもテキスト解釈が過ぎてて専門外のわたしにはトンデモすぎてムリでした。ゴメンナサイ。			
	93-108	16P (2分)	利得表	2008/11/04 01:44:29

evolv ☆☆☆☆☆	もっともわかりやすいのは神である。 　この本を読んだ私の素直な感想である。人の感情や思想は、私自身の経験不足から、この古の人々の行動理念の理解に苦しむことが多い。ゲーム理論というものを扱っているこの本において、利得への納得がうまくいかないと、本を読み解くのに難しい点が多くなってしまう。 　しかし、全知全能の神の行動は、誰から見ても合理的でもっとも人間らしく、そのすべてが人の父とも言える行動であると感じた。 　この本の正確の評価としては、私としては４．５をあげたい。個人的には満点だが、前提知識が多く必要とされる。とくにゲーム理論の知識というよりも旧約聖書に対しての知識がないと、全くと言っていいほど意味がわからないだろう。 　しかし、私のような旧約聖書をかじっているような変わり者にとっては、とても神というものへのあこがれを刺激される本だと断定できる。			
	1-353	353P (300分)	298ページ	2008/10/31 01:08:29

Ian ☆☆	タイトルが面白そうだったので読んでみたが、内容にはあまり興味がわかなかったので途中で断念した。			
	1-46	46P (60分)		2008/10/28 00:02:14

ＴＯＰへ

決闘裁判　世界を変えた法廷スキャンダル

著者名	エリック・ジェイガー	発行年	2007年
出版社名	早川書房	ページ数	277ページ
値段	2,100円	ISDN	978-4152088734
コメント	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。 　ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあって、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。 　ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
takuto ☆☆☆	扱っている裁判のないようやらがおもしろかった。			
	１－９０	90P (90分)		2009/02/19 10:59:31
前田 ☆☆☆	タイトルから最初は何のことかよくわからなかったがこんな時代もあったのかとびっくり 強姦が結婚により許されるってすごい時代だなぁと思った			
	77-198	40P (121分)		2009/02/18 00:38:06
ap ☆☆☆	最初は事件の内容に、なんですぐに有罪になんないのかと思ったけれど、当時の複雑な事情に、事件の真相は謎で、興味深いと思った。ただ、当時の女性に対する態度はむかついた。 決闘がどうなるかハラハラして面白かったけど、説明が長いと感じた。			
	9-288	279P (120分)		2009/02/02 22:46:34
DNA ☆☆☆	飽きたからすぐやめてしまった。			
	1-60	60P (25分)		2009/01/27 15:22:13
・・・からお越しの ☆☆☆	こんな裁判があるなんて想像もつきませんでした笑 ただ説明が多すぎてちょっと読みずらかったです。			
	61-255	194P (180分)	77-109	2009/01/27 13:07:00
上場亮 ☆☆☆☆	迫力満載ですごく読み応えがあった。			
	全部	277P (240分)		2009/01/14 10:19:27
chicken-run ☆☆☆☆☆	決闘の場面も当然面白かったが、時代背景や当時の風習の説明もしっかりと書かれているため、それらを知るための参考図書にもなり、非常に勉強になった。			
	全部	277P (90分)		2008/12/28 02:35:04

forex ☆☆☆	一つのエピソードが一冊を通じて語られるタイプの本だったので、あまり読む気になれなかった。 ただ、決闘という概念は知っていたものの、大昔のヨーロッパで決闘で裁判の判決を下す、決闘裁判というものが行われていたということは今回この本で初めて知った。一神教の宗教を信仰していたからこそ成り立った仕組と言えるのではないかと思った。			
	1－12	12P (10分)	特に無し	2008/12/19 16:18:01
david wright ☆☆☆	たのしかった			
	1-50	50P (20分)		2008/12/14 20:58:55
弟子 ☆☆☆	なんらバックグラウンドを知らなくとも決闘の場面というのは案外面白いものだった。 はじめは騎士道精神に則って型どおりに、そして最後にはルールなし容赦なしの死闘になるあたり、どことなく人間臭さを感じました。結局は素手での殴りあいになるあたりの件で紅い豚さんを思い出したのはきっと私だけですね。			
	228-255	28P (30分)	228-255	2008/12/09 04:52:48
ミニブタぽん ☆☆☆	映画を見ているようだった。こんな話がノンフィクションだとは。			
	7-10,77-109,228-255	63P (100分)	228-255	2008/11/26 23:02:19
snsk ☆☆☆	時間がなくて裁判ものなのに裁判のシーンまでたどり着きませんでした…。 犯されたマルグリットは、厳しい状況の中どうやって裁判で戦っていくのでしょうか ところどころに挿絵もあって分かりやすかったです。			
	1-109	109P (60分)		2008/11/25 20:43:50
monkiti ☆☆☆☆	海外の中世的の騎士が出てくるような映画って感じでした。 気楽に読めました。			
	1-255	255P (69分)	228-255	2008/11/13 11:15:16

ＴＯＰへ

数量化革命

著者名	アルフレッド・W・クロスビー	発行年	2003年
出版社名	紀伊国屋書店	ページ数	352ページ
値段	3,360円	ISDN	978-4314009508
コメント	数を数えるって何？　アラビア数字、時計に地図、遠近法に楽譜……いろんな近代的発明の根っこで起きた〈もののみかた〉大転換をつかまえる。それはまさに〈理系〉なるものが誕生した瞬間なのだ。14世紀初めのヨーロッパ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
鍋工房 ☆☆☆	大転換というものは体験しないと分からないですね。 ゼロになぜそこまで強い拒否感を示したのか実感できません。			
	129-169	41P (30分)		2009/02/19 17:36:42
継承者 ☆☆	じゃっかん読みづらい。 数式ばかりってわけじゃないので、それが苦手で敬遠している人は、とりあえず読んでみるのもありかと。			
	1-101	101P (60分)		2009/02/18 14:06:27
かける ☆	内容が薄い。文字を追うこと自体が好きな人むけなのだろうか。 絵画に関するこはいい加減なところが多い。			
	はじめ３０と絵のとこ	50P (30分)		2009/02/16 16:15:57
＆ＤＯ ☆☆	最初のさわりだけでやめた			
	1-20	20P (15分)		2009/02/10 17:02:57
david wright ☆	楽勝だった			
	1-352	352P (1分)		2009/01/18 11:38:34
forex ☆☆	文中に脚注のようなものが多く、読みづらく、このようなページ数で挫折してしまいました。 個人的には内容にもあまり興味がもてませんでした。 全然ページ数を読んでないのでえらそうにはかけませんが、おそらくヨーロッパ出身の方が読んだら興味をそそられ、おもしろく感じることができるのかもしれません。			
	1-18	18P (30分)	特に無し	2008/12/12 15:48:54
クマー ☆☆☆☆☆	西欧諸国の人類史的に見てもまれに見る発展を「数量化」と「視覚化」という２つの視点から考察している。 最近、思うのだがどうしてギリシア哲学やキリスト教からは数学、科学が生まれて、インド哲学や仏教哲学からはそれに対応するようなものが生まれなかったのだろう、って最近仏教哲学をかじってて思った。仏教の方法論というのは僕にとっては西欧のそれよりも極めて合理的で厳密性もあり、科学よりも科学的に思われる。 しかし、科学の歴史はヨーロッパから始まった。本書にちょっと書いてあったが、インドは人口に占める純粋数学者の割合がヨーロッパのそれよりも多く、ヨーロッパは物理学者が多いそうだ。そこんところつっこんで考えてみたら面白いかも。			
	1-300	200P (20分)	147-169ページ	2008/11/18 13:17:02

自由教育 ☆☆☆	今日の記数法ができるまでにとても長い年月がかかったことがわかる。ローマ数字とアラビア数字をごちゃ混ぜにして、数を表記していた時代があったなんて知らなかった。			
	15-36、129-184ページ	78P (60分)		2008/11/17 17:51:31

heat-active ☆☆☆	この著書が取り上げている時代はいわゆる神が主体の時代（キリスト教が支配していた時代）から人間が中心の時代に移り変わっていく時代です。その時代にモノを数える概念が芽生えてきて、どのように発展していくかが書いてあり、難解な部分もあるが、とても興味深い本です。			
	1-190ページ	190P (300分)	147-155	2008/11/07 23:47:54

joker ☆☆☆	数量化というよりも、ものごとの記述に関する考察がなされている本。 タイトル一見、数式ばんばんかと思いきや、そんなことはなかった。			
	1-352	352P (120分)		2008/10/23 12:18:38

弟子 ☆☆☆	「先生、りんご１つとゴマ粒１つでは、２つにはなりません！」 小学校低学年で経験したことはないだろうか？ 意外なことに思われるかもしれないが、発達段階的に言えば数の保存の概念はかなり高等な技術を要している。大きなりんごも３つ、小さなゴマ粒も３つ、どちらも３つで同じ。そう理解できるようになるまでに人間なら誕生から約７年ほど要する。この本はさらにその上の、「３つ」という概念をいかに視覚化するかについての歴史が書かれている。１と０で「１０」、もうひとつ０を足せば「１００」、教科書にすら乗っていないような当たり前のことであっても、形になるまでには相応の歴史がきちんとある。 子供のころに疑問に思った方、大人になって疑問に思った方、心に思うところのある人は読んでみてはいかがだろうか。			
	103-169	67P (30分)	103-	2008/10/21 16:00:50

ＴＯＰへ

砂糖の世界史

著者名	川北 稔	発行年	1996年
出版社名	岩波書店	ページ数	208ページ
値段	208円	ISDN	978-4005002764
コメント	アジアのお茶とカリブの砂糖がイギリスで出会って世界が変わる。砂糖を基軸にコンパクトにまとめて便利だけれど、みんな白人が悪いのさ、という岩波流善悪史観にやや疑問も沸く。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
柴 ☆☆☆☆	世界史の勉強になりました。 砂糖すごい！			
	全部	209P (120分)		2009/02/20 10:19:30
弟子 ☆☆☆	さっすが岩波ジュニア文庫。さながらスピーチ・コンテストの原稿用紙か、優等生の模範解答のような文章。 こんな文章、だいきらい。 …いまさらだけど、「208円」の誤植は直ってないのね。初代からあったから、全コピペみたいね。			
	all	208P (0分)		2009/02/20 05:52:55
ミニブタぽん ☆☆☆	国とか人物ではなく砂糖の視点から世界を考える発想が面白い			
	1-8,201-206	14P (20分)		2009/02/20 00:37:49
uk ☆☆☆	砂糖…甘いものが好きな自分にとってはなくてはならないものだ。 争いが起こっても仕方がない。			
	1-208	208P (100分)		2009/02/19 21:49:33
BLOWIN' ☆☆☆☆	砂糖で知る世界がある。 きっと他の日常品についても長い歴史があるのでしょう。			
	1-138	138P (120分)		2009/02/15 20:05:23
kazuki ☆☆☆☆	塩の道同様に「なるほどなぁ」みたいな。 糖尿病にご注意あれ。			
	1-20	20P (15分)		2009/02/15 16:45:38
＆ＤＯ ☆☆☆	砂糖に詳しくはなる 砂糖によって世界を見る このようにほかの観点から世界を見ると違って見える			
	1-138	138P (90分)		2009/02/10 06:51:26
snsk ☆☆	砂糖について学べました。 後半は飽きてきてしまいましたが・・・			

	1－208	208P (60分)		2009/02/06 18:49:58

下阪神 ☆☆	砂糖って奥が深いんですね			
	1-40	40P (30分)		2009/02/04 13:07:34

!? ☆☆☆	砂糖でこんなに書けるんだと思った。			
	1-90	90P (60分)		2009/01/28 11:20:24

DNA ☆☆☆	砂糖は世界をつなぐのですね。			
	1-120	120P (40分)		2009/01/27 15:19:20

上場亮 ☆☆☆☆	とても読みやすかったです。			
	1-208	208P (120分)		2009/01/26 21:23:25

反社会性人格者 ☆☆☆☆	人類の負の遺産である奴隷制度を象徴すような一品、砂糖。 注目はイギリスの階級制度との関係を綴った3、4章。			
	1-208	208P (150分)	3、4章	2008/12/10 22:33:13

forex ☆☆☆☆	「鉄・病原菌・銃」の簡易版のような本だった。 「鉄・病原菌・銃」よりもポイントが砂糖に絞られていて読みやすかった。 「鉄・病原菌・銃」に興味を持った人にはとてもおもしろく読めるんではないかと思った。 児童書なのでわかりやすい説明もよかった。			
	1-208	208P (180分)	all	2008/12/06 19:44:12

Ian ☆☆☆☆☆	砂糖を求めて奴隷が使われていた。こういうふうに世界史を習っていたらもっと楽しめたと思う。			
	1-208	208P (120分)		2008/11/16 22:41:34

david wright ☆☆☆	砂糖で世界を知った			
	1-25	25P (5分)		2008/11/16 20:58:35

ri-si- ☆☆☆☆☆	砂糖という一つのものを使ったわかりやすい世界史の本って感じです あらゆるものが簡単に手に入る現代とは違い人間が地球に生まれてから大半の時代はほとんどの人が餓死寸前だったこともわかります。また、世界が初めてつながった理由も砂糖だった？			
	1-208	208P (90分)	202-206	2008/11/05 03:02:17

非食用もやし ☆☆☆☆	砂糖の歴史を消化すると同時に、ページ数を消化するのにお勧めです。誰にでも読みやすい大きめな文字でご提供しております。			
	1-60	60P (40分)		2008/10/22 19:58:51

kate ☆☆☆☆	当時、万能薬として信じられていた砂糖を求める人々の様子が分かりやすく書かれています。			
	1-208	208P (120分)		2008/10/20 13:46:18

自由教育 ☆☆☆	砂糖の生産と共に変わりゆく人々の生活。世界史の知識がちょっと増える本。			
	11-90、113-138ページ	106P (60分)		2008/10/15 23:32:27

ＴＯＰへ

- 図書一覧 書籍紹介 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

ジャガイモのきた道

著者名	山本紀夫	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	198ページ
値段	740円	ISDN	978-4-00-431134-8
コメント	――ねえなんで「イモ娘」ってケナシ言葉なの？　おにいちゃん。 アンデスからヨーロッパへ、そして日本へ。毒のある悪魔の植物と恐れられたり、キノコの一種と勘繰られたりしながら、飢饉にも強い植物として、たくさんの人命を助けてきた。その足跡をワールドワイドに訪ね歩く。ちと教科書っぽいけど、食べ物が文明や国をつくるようすが、よく了解できる。 ――飢饉の時の間に合わせの食糧だから下に見るなんて恩知らずだよね、いもうとよ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
柴 ☆	砂糖＞塩＞＞じゃがいも・こんにゃく 的な感じでした。			
	1-10	11P (5分)		2009/02/20 10:44:05
so ☆☆	ただ情報がいっぱい書いてある感じがした。筆者はジャガイモを良く書きすぎだと思う。表やグラフがわかりやすかった。			
	59-67,185-196	21P (15分)		2009/02/19 23:04:52
かける ☆☆☆	無駄にジャガイモについての知識が増えてしまった。 本は読んだら読んだ前にもどれないのが面倒。			
	1-198	198P (60分)		2009/02/16 16:06:54
kazuki ☆☆☆☆	塩、砂糖と同じ感じです。			
	1-24	24P (20分)		2009/02/16 12:46:25
snsk ☆☆	砂糖と同じ匂いを感じました・・・ ひたすらじゃがいものことです。			
	1-198	198P (60分)		2009/02/10 01:31:13
chor ☆☆☆	筆者のジャガイモ愛にうたれます			
	1-198	198P (90分)		2009/02/06 21:39:54
ザルカヴァ ☆☆☆	アイルランド人はジャガイモが好きだということがわかった。			
	59-94	35P (20分)		2009/01/21 12:45:01
上場亮 ☆☆☆☆	ジャガイモの歴史がシュールに書かれていて、たまに笑ってしまう。			
	全部	198P (180分)		2009/01/14 10:20:57

forex ☆☆☆	こういうふうな本では普通、作者は他の本とかから写真などは引用したり、現地の環境を抜粋したりするものだと思うが、この本の作者が実際に現地を訪れて調査しているところに、この作者の気概のようなものを感じた。			
	1-10	10P (30分)	なし	2009/01/12 01:02:48

反社会性人格者 ☆☆☆☆	作者はいささか熱くなりすぎなのであまり肩入れはしないが、じゃがいもは素晴らしい事は事実そのもの。 食料自給率40%の日本に住む我々が今一番読むべき一冊。			
	1-198	198P (90分)		2008/12/10 21:18:25

Karagounis fan ☆☆☆	歴史上では穀物の影に隠れ、語られることのないジャガイモが主役。 ジャガイモ好きとしては嬉しいですが、内容はつまらなかった。			
	25-121,185-199	112P (120分)	72-73	2008/12/01 22:59:50

DNA ☆☆	いもマニアにはなりたくないとです。			
	1-103	103P (60分)		2008/11/22 00:47:17

david wright ☆☆☆	いもがわかった			
	1-26	26P (6分)		2008/11/16 20:59:52

うみねこ ☆☆	ジャガイモの歴史がよくわかる本。 事実をただ書いているだけなので、あまり興味がないと、たんなる歴史の教科書みたいになっちゃいます。 ちょっと地味。			
	1-24ページ、59-94ページ	60P (30分)		2008/11/15 20:58:54

chicken-run ☆☆☆	じゃがいもについて詳細に書かれた本です。 将来、海外で働いたり暮らしたりしたい人は、向こうの習慣や歴史を知るためにも、読むことをお勧めします。			
	1-198	198P (90分)		2008/11/10 21:10:25

kate ☆☆☆☆	ジャガイモを上手に利用するための知恵やどのように普及していたかなど読んでためになる本です。			
	1-198	198P (100分)		2008/11/04 08:29:53

joker ☆☆☆	ほかでもコメントがあるが、じゃがいもについて熱く語られた本。 この内容をどう汎用化していくかが、腕の見せどころ、かもしれない。			
	1-198	198P (90分)		2008/10/28 13:11:21

弟子 ☆☆☆☆	経済を学んだことのある方、「ギッフェン財」をご存知ですか？ ジャガイモという食物の、決して長くはないが同時に軽くはない歴史について語られた本。アイルランドでの話は特に印象に残った。			
	1-121	121P (60分)	第３章	2008/10/28 12:33:50

!? ☆☆	jジャガイモについてちょっと詳しくなったけど、この知識を使う日が来るか…。			
	60-152	90P (90分)		2008/10/28 02:30:16

非食用もやし ☆☆☆☆	ジャガリコ・ジャガリコ 「ジャガイモがないと、ジャガリコもポテトチップスも食べらないから、大変なんだよ！」という話。 では、ありません。 ジャガイモが、少し過酷な環境でも成長するために今でも重宝され、実は世界的にかなり作られているという話。←こっちが本当。			
	1-30	30P (20分)		2008/10/22 20:18:56

ＴＯＰへ

インド細密画への招待

著者名	浅原昌明	発行年	2008年
出版社名	PHP新書	ページ数	169ページ
値段	850円	ISDN	978-4-569-70116-5
コメント	珍しさ、を推します。文章はキレもまとまりもないし、論点のしぼりこみもまだまだ。同じく絵をテーマとしながら、中野京子さんの筆のような絵の内面をえぐってゆく迫力には遠く及びません。 　でも、とにかく珍しい。インドの細密画なんて、見たことない。象がごうごうと暴れ、クリシュナが牛飼い女たちの裸身を愛でる。題材も珍しいけれど、描き方も珍しい。エジプト風の横顔なのに、向こう側の目が飛び出して見えるなんて、へんなの。 　その「へんなの」が異文化理解の入り口につながる。絵が歌を表現してるなんて、想像できますか？ 　本文はあまり気にせず、ぱらぱらめくって目に止まった絵の解説からどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
弟子 ☆☆☆☆	特に印象に残ったのは、クリシュナ神の肌の青さ。本当に青々していて、それでいて人間らしく描かれていて、見ていてびっくりしました。92ページ目のクリシュナ神が本当に美しくて、それが逆に奇妙です。			
	12-109	98P (30分)	92	2009/02/20 05:57:45
Karagounis fan ☆☆☆	クリシュナの物語の絵が面白かった。 日本でいう、授業でやった釈迦の絵みたいなものなのかな			
	12-183	172P (90分)	80,81,88	2009/02/11 12:18:37
david wright ☆☆☆☆	絵がよかった			
	1-169	169P (5分)		2009/01/24 00:08:39
snsk ☆☆☆	絵だけを追って読みました。 色鮮やかで面白かった！女の人の絵がほとんどでした。			
	1－120	120P (20分)		2009/01/14 23:50:24
・・・からお越しの ☆☆☆	芸術って国によってほんとに全然違うっていうのを感じました。 っていう薄い感想だけど結局全部見てしましました。			
	1-193	193P (120分)	絵	2009/01/12 23:55:55
TAK ☆☆	おれには理解できないインドの細密画。 流すように全体読んだが、よくわからなかった。 写真をぱらぱらとみてれば、何となく楽しくなれるかも。			
	12-193	181P (120分)		2008/12/14 15:21:58
joker ☆☆☆	読むというより、見る本。			
	1-169	169P (90分)	絵	2008/10/21 13:08:16

クマー ☆☆☆☆	最初の方しか読んでないや。あとはいっぱいあるカラーの図版を鑑賞してました。 日本でいう江戸の浮世絵みたいなものかな。現地の人にとっては包み紙みたいなもんだけど海外の人から見るとすげーっ！ていう。			
	1-150	116P (40分)	102	2008/10/14 14:45:41

ＴＯＰへ

中華中毒

著者名	松村　伸	発行年	2003年
出版社名	ちくま学芸文庫	ページ数	428ページ
値段	1,500円	ISDN	4-480-08743-5
コメント	ゴジラを引き合いに出して北京の都市計画を考える章がワザアリ（244ページ）。 10メートルもの巨大な怪石を庭園に並べて悦に入ったり、「気」の噴出する（はずの）穴の捜索に血道を上げたり、奇天烈中華のキテレツ趣味全開。パラパラ眺めて、へえぇと思った挿絵のところからどうぞ。 そうそう、少うしだけヤバい絵があるので、小さなお子様の手の届かないところに保管してくださいな。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
・・・からお越しの ☆☆☆	表紙と同じように若干とっつきにくかったです。残念。			
	1-45	45P (60分)		2009/02/19 00:36:06
TAK ☆	中国に対して中毒的になれるような本ではなかったです↓ 途中で投げました。			
	1-74	74P (45分)		2009/02/16 18:45:01
BLOWIN' ☆☆	中華、中毒。 「中国＝毒」みたいなのを期待していたが、違うし、とっつきにくい。			
	1-35ページ	35P (60分)		2009/02/13 00:08:45
ri-si- ☆☆	中国と欧州の融合ということにはなってない気がした！			
	1-41	41P (40分)	・・・	2009/02/09 10:05:18
besevener ☆☆	やっぱり中国だった。			
	1-53	53P (39分)		2009/02/09 07:56:28
下阪神 ☆☆☆	中華料理を食べて食中毒になったとかそういう話かなと思いこの本を手に取った自分が恥ずかしくなった。 発想が奇想天外だが視点がなかなか面白かったように思う。			
	1-40	40P (30分)		2009/02/04 12:33:58
ザルカヴァ ☆☆☆☆	もし、北京にゴジラが出没したら…を真面目に考察。なかなかおもしろい視点だと思った。読みやすいかも。			
	244-278	35P (25分)		2009/01/14 21:25:23
forex ☆☆	最初の導入部分であまり食指が動きませんでした。 引き合いに出されたPSソフトも自分はやったことがなかったので。			
	1-14	14P (30分)	なし	2008/12/06 19:49:44

弟子 ☆☆☆	下の「中国でした」のコメントを読んで、何か考えさせられました。 私が読んだのは中国は中国でも香港のパート。いわゆるブリティッシュ・ブリティッシュした香港から、名前の通りチャイナタウンが出来ていくあたりしか読んでいないのでいまいち中国っぽくは無かったけれど。此処を読むのであれば、ブックリスト38番「転がる香港に苔は生えない」との併読をお勧めする。		
	9-41	33P (10分)	2008/11/17 22:03:43

david wright ☆☆☆☆	中国でした		
	1-50	50P (20分)	2008/11/11 00:27:51

ＴＯＰへ

死刑執行人サンソン

著者名	安達正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISDN	978-4087202212
コメント	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
evolv ☆☆☆☆☆	もし同じ立場ならどうするだろうか。私は正常でいられるだろうか。もし恋人の立場ならどうするだろうか。すべてを捨てて愛することができるだろうか。 恋は盲目とはサンソンにぴったりな言葉な気がする。タイムマシーンで彼にあったら、人生の選択に後悔しているかを聞きたい。そして変えれるなら、彼は何を変えたいと言うだろうか。			
	1-237	237P (150分)	一章	2009/02/20 01:00:43
☆ ☆☆☆	死刑執行人はどの時代もやはり特別な職業でその人ならではの苦しみがあるのだと思った。			
	1-53ページ	53P (45分)		2009/02/19 23:33:28
so ☆☆☆☆	グロくてところどころ嫌だったけど、４代目が裁判のときに言った言葉が印象的だった。			
	1-46	46P (60分)		2009/02/19 21:22:23
鍋工房 ☆☆☆☆	やはり欧州の社会システムにおいては神の存在が前提となっていることを再認識した。 そのフランスにおいてさえ、死刑制度の廃止に多くの歳月を要した。 裁判員制度が施行されようとしている今だからこそ、そして神の存在が前提となっていない日本人だからこそ、死刑に関わる人間の苦悩を知っておくべきだろう。 自らの抱える不条理についての正当性を見失った時、きちんとそれを承認してくれる社会が必要だと感じた。			
	全部	237P (240分)		2009/02/19 17:40:51
ketume ☆☆☆☆	自分だったら絶対耐えられない職業である。登場人物の中でサンソンが一番まともに思えた。			
	all	237P (300分)	41-45	2009/02/19 12:06:19
BLOWIN' ☆☆☆	はい。私を処刑して下さい。			
	85-136	52P (30分)		2009/02/16 23:04:46
Karagounis fan ☆☆☆	死刑執行人の苦悩についてはフランス反骨変人列伝のサンソンの話でだいたいわかっていたので新鮮さはあまりなかった。 なのでどうしても２章の残虐な死刑が印象に残ってしまった。キツイ・・・			
	7-46,85-136,219-239	111P (60分)	85-136	2009/02/12 23:50:09
弟子	彼は敬愛する国王に死刑を執行しました。			

☆☆☆☆☆	all	237P (0分)	4章	2009/02/10 15:21:14

ri-si- ☆☆☆☆	ギロチンって死刑囚が苦しまなくていいように作ったってことが衝撃でした。 日本の切腹ってよく考えるとかなり苦しむひどい死に方だと思います。			
	1-253	253P (90分)		2009/02/09 10:14:52

monkiti ☆☆☆☆☆	処刑人だからこそ持つ視点、つまり処刑法にいちばん身近な人間だからもちえた見解をもって、フランス革命を分析している点が面白かった。フランス革命について、詳しく知らなかったので、この本のおかげで、歴史も見方次第で全然違って見えるのだなあと感心させられる本だと思う。			
	8-239	232P (60分)		2009/02/08 03:12:54

反社会性人格者 ☆☆☆☆	現代人は死刑執行人に関して、「差別されていた」、「偏見による半強制的な世襲により他の職に就けなかった」などのステレオタイプなイメージを連想しがちである。 勿論それは事実であるが、死刑執行人の死刑に対する意識や、思想についてはあまり語られない。 本書は主に主人公である四代目サンソンの内面をサンソンの視点で記述した興味深い一冊。			
	1-237	237P (180分)	全部	2009/02/02 22:28:37

継承者 ☆☆☆☆	タイトル的に興味のあることがらだった。 死刑に関しては、いろいろな場で議論を呼ぶもの。個人的には反対なんだけど、この本をよむまで、死刑を執行する側については全く知らなかった。 極端に言うと、人を殺す仕事。それを行う人の心情。 人の死の重さを新たな視点で知ることができたと思います。			
	全部	237P (180分)		2009/01/23 23:50:42

・・・からお越しの ☆☆☆☆☆	結構はまりました。 やれと言われても誰もやらないがやっている人はばかにされてしまうという死刑執行人。 苦悩とかそういうギリギリ感がすごいおもしろかったです。			
	1-253	253P (300分)	85-136	2009/01/13 00:08:01

クマー ☆☆☆☆☆	ひどい殺人事件などがあると「あんなやつは死刑だ」と叫ぶ人たちがいるが、彼らは実際にその犯罪者を死に至らしめることができるだろうか。あるいは死に至る過程を見届けることができるだろうか。 人を死刑と裁くのも人だが、人を処刑するのも結局、人である。 本書は革命前夜のフランスで、そんな人を処刑する仕事にうっかり就いてしまった男の物語である。 たしか本の帯に荒木先生の絵がついてた記憶があって。そのせいでサンソンがジョジョのキャラクターのイメージで思い浮かぶもんだからサンソンがかっこよく思えてしょうがなかった（笑）			
	1-241	200P (45分)	86-136	2008/11/25 19:00:05

sweets ☆☆☆	フランス革命についての知識の無い自分でもよく理解できた。 面白かったか？と聞かれると、そうでもないかなと…			
	all	237P (120分)		2008/11/19 23:27:19

snsk ☆☆☆☆	「死刑」と宣告された人を処刑する、ただそれしかすることは出来ない。 刑をきめることもできず、指示通りに人を殺すという仕事がどんなものなのかがリアルに書いてあった。 ギロチンの話は怖かった。初めて使われたときに人々が大勢集まったことは、人の死に対する恐怖感も無く一つの劇を見ているような気持ちで見学している感じがして嫌な気分になった			
	1-58,127-176	108P (50分)		2008/11/08 23:13:30

うみねこ ☆☆☆☆	ただ単に死刑執行人の話だけでなく、フランス革命のこともよくわかったので、良かった。 題名は死刑執行人サンソンだが、フランス革命について詳しく知りたい人にもいい本だと思う。			
	1-253	253P (180分)		2008/11/08 15:05:09

chor ☆☆☆☆☆	死刑執行人の社会的立場と、実際上の人間性のギャップが興味深かった。			
	1-237ページ	237P (130分)		2008/10/31 22:44:31

david wright ☆☆☆	趣味の悪い話だった			
	1-237	237P (120分)		2008/10/24 07:48:11

非食用もやし ☆☆☆☆	一族の始まりの理由がものすごくあっさりだった。 初代サソンソにあんなドラマがなけれ、処刑人にはならなかっただろうに…。			
	1-50	50P (40分)		2008/10/22 20:08:15

DNA ☆☆☆☆	多角的な視点で見れて良かった。			
	1-241	242P (250分)		2008/10/22 07:37:10

kate ☆☆☆☆☆	ギロチンの形を考案したのがまさかあの人だったとは……いろいろな知識が身に付く本です。			
	1-237	237P (150分)		2008/10/20 13:58:47

自由教育 ☆☆☆☆	最初の少ない部分を読んだだけでも、死刑執行人とはどのようなもので、どんな境遇にあったかをを知ることができた。どんな職業だったのかを知れただけでも読んだ価値はあっただろう。			
	8-84ページ	73P (45分)		2008/10/15 23:38:48

宅急便 ☆☆☆☆	少なくとも当時の死刑執行人というものは、その言葉から単純に想起されるものとは大分異なるらしい。サンソンは死刑執行人であるが、教養があり、資産もあり、人に対する慈悲も持ち合わせている。 ストーリーのはしばしからにじみ出る４代目サンソンの人間性のよろしさと、彼の職業から感じられるおどろおどろしさとの矛盾が、この本の魅力の一つなのだと思う。 立ち読みポイントは最も衝撃を受けた部分なので抜粋したが、グロテクスな描写に耐性の無い方は読まない方がよろしい。			
	8-239ページ	232P (180分)	94-102	2008/10/14 23:21:19

ＴＯＰへ

フランス反骨奇人列伝

著者名	安達正勝	発行年	2006年
出版社名	集英社新書	ページ数	205ページ
値段	735円	ISDN	978-4087203370
コメント	昨年のサンソン人気にあやかってセレクト。革命期を生きた４名のいずれ劣らぬ気骨びと。太陽王ルイに、あるいはナポレオンに抗して敢然と己を枉げなかったところが、惚れ惚れと潔い。 とりわけ死刑執行人「大サンソン」の孫の懊悩のくだりは、しっかり作者の共感が乗っていて、ぐっと胸に迫ります。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
弟子 ☆☆☆☆☆	アンリークレマンが最後に歴代サンソンの著書を紐解く場面が			
	all	205P (0分)	all	2009/02/20 06:02:29
ベル ☆☆☆☆	サンソンのところを読んだ。生まれながらにして家業を継ぐことが決まっているという状況は数十年前まで日本にもあったような？			
	153-214	62P (60分)		2009/02/19 10:32:06
DNA ☆☆☆☆	サンソンを先に読んでおいたから読みやすかったし分かりやすかった。			
	1-120	120P (50分)		2009/01/27 15:24:46
前田 ☆☆☆☆	時代に合わなかったがために不幸の人生を歩んでしまった人たちの物語 変人と言われながらも自分の意志を貫いて生きる様は尊敬した 今生きている時代の固定観念がいかに考え方を支配しているかを気づかせてくれる本だった			
	1-205	205P (150分)	10-40	2009/01/22 10:50:33
david wright ☆☆☆	死刑執行人がわかった			
	1-205	205P (120分)		2008/12/28 18:20:32
柴 ☆☆☆☆☆	死刑執行人サンソンの話が印象的だった。最近ギロチンの話ばっかり読んでるから夢に出てきそう。			
	全部	205P (120分)	サンソン	2008/12/16 22:35:16
Karagounis fan ☆☆☆☆☆	とても読みやすく面白かった 特にネー元帥の悲劇はネー元帥の魅力が非常によく伝わった			
	3-80,153-217	143P (120分)	78-80	2008/12/01 23:14:04
☆ ☆☆☆☆☆	面白かったので全部読んでしまいました。変人と言っても強い意志をもって自分が正しいと思ったことをやる人たちだったので、大変魅力的な人ばかりでした。ただ、変人だけあって、そんな生き方をしてしまっているなとも思いました。			
	1-205ページ	205P (180分)		2008/11/30 23:43:57

マシュ ☆☆☆☆	４つの話のどれも面白かった。死刑執行人サンソンは名前のイメージとはかけ離れていたし、モンテスパン侯爵の感覚は当時の価値観とはずれていたが現代にとってはモンテスパン侯爵の感覚の方が自然だと思った。特にネー元師は能力と時代が合っていなくて可哀想だと思った。		
	全部	205P (180分)	2008/11/27 00:58:17

kate ☆☆☆☆	全体的に面白かった。死刑執行人サンソンの話は別の本で読んでいたが、この本にも取り上げられていたのでかなり人気のある話なんだと思った。		
	10-216	205P (130分)	2008/11/18 10:43:32

たくや ☆☆☆☆	死刑執行人のイメージが変わった		
	サンソンのとこ	37P (90分)	2008/11/14 14:13:17

!? ☆☆☆☆	ラスネールの詩が良かった。性格的には自己中な感じがするけど。あと、死刑執行人の人には絶対なりたくないと思った。		
	82-151,173-210	106P (120分)	2008/10/28 02:36:09

うみねこ ☆☆☆☆	非常に読みやすい作品だった。 簡潔な文体で書かれ、内容も深さはないが面白く笑えるものであった。		
	19-81	62P (30分)	2008/10/21 02:27:45

ＴＯＰへ

怖い絵　１・２

著者名	中野京子	発行年	2007年
出版社名	朝日出版社	ページ数	481ページ
値段	3,600円	ISDN	978-4-255-00399-3
コメント	絵は怖い。画家の辛辣な筆が、人の体の醜さを、人の心の卑しさを、これでもかと暴き出してしまうから。 絵は怖い。人の醜さや卑しさをぞんぶんに暴き出した返す「絵筆」で、その絵を描いた画家自身の心に潜む憎悪や偏見をも、容赦なく暴き出してしまうから。 好評につき続編もリリースされたばかり。本編では、ムンク、ゴヤ、ダヴィッドの「マリー・アントワネット」にラ・トゥールの「いかさま師」が、とりわけ怖い。続編では、ブリューゲル「ベツレヘムの嬰児虐殺」、サロメ、そして、ミスター・アルノルフィニの爬虫類の眼。 ぱらぱらめくって、気になった絵のところから中野流のホラー・ワールドへGO!		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
uk ☆☆☆	さらっと流して読んでみたが、好奇心をくすぐるところがなかった。			
	1-113	113P (30分)		2009/02/19 21:53:58
chicken-run ☆☆	タイトルから結構身構えて読み始めましたが、正直期待していたほどのインパクトはありませんでした。			
	1-150	150P (40分)		2009/02/19 15:30:42
ketume ☆☆☆	絵一つ一つの解説はとても面白く、自分では気付けなかった点を指摘してくれいる。普段絵に馴染みのない自分にとっては新鮮であり、楽しく読めた。			
	12-245	234P (90分)	236-245	2009/02/19 14:07:59
☆ ☆☆☆	同時期の日本の絵とは比べ物にならないほどリアルでグロテスクな絵が多かった。これが本の題名となっている怖い部分なのだろう。日本には絶対ない絵ばかりで西洋との文化の違いが垣間見えた。			
	55-150ページ	95P (80分)		2009/02/19 01:12:08
継承者 ☆☆☆☆	みるからに怖い絵が載っていた…そういう絵がたくさんのっている本なのかなと読んでみたが、それだけではない。 というか、そうではないところにこの本の面白さがあるのではないかと思う。 見方一つで変わる、その絵に描かれた怖い部分。 人の描くものがこれほど怖いものだとは知らなかった。			
	1-151	151P (120分)		2009/02/18 14:22:32
前田 ☆☆☆☆☆	なんでもない美しい絵が背景の説明一つでこんなにも見方が変わるとは、絵画のおもしろさにあらためてひかれた 特にゴヤの絵はパット見でもかなり怖いがゴヤが見てきた地獄を思うとすごい説得力が増した あとメヂューサ号の話も興味深かった 美術鑑賞はインスピレーションで感覚的な部分も大事だけどその背景にある知識を知ることもより理解するために大事なんだなと思った			
	1-481	481P (150分)	ゴヤ	2009/02/18 00:46:28
TAK ☆☆	ゆるーく読みましたがあまり面白くなかったので、ギブアップです…。			
	15-103	86P (60分)		2009/02/16 18:42:40

世界のニシテツ ☆☆☆☆	絵のページが多くてページをたくさん読んだという感覚が少なくてよかった。			
	1-120	120P (90分)	絵の載っているページ	2009/02/12 13:12:28

besevener ☆☆☆☆	リアルな怖さだった。			
	1-163	163P (120分)		2009/02/09 07:54:33

下阪神 ☆☆☆	絵だけでもホラーみたいで怖い。 解説を読むと鳥肌がたった。			
	1-20	20P (10分)		2009/02/04 12:55:44

クマー ☆☆☆☆☆	見える怖さより見えない怖さの方が100倍恐ろしい。 「リング」のような日本のホラー映画が、ハリウッドのようなCGをふんだんに使って化け物がバンバン出てくる それよりも怖いのは、見えない怖さを表現する方法論が日本では洗練されているからでもある。 本書には一目見て怖さがわかる怖い絵と一目ではわからない怖い絵がある。怖いのはやはり後者だ。ひとつあげれば作品１３のホガースの『グラハム家の子どもたち』。一見、子供たちは笑みを浮かべ、とても幸せな家庭の１コマのように思える。 「では何が怖いか？」… 本書で繰り返し使われる著者のこの台詞のあとには私たちはもう絵を直視することができない。 絵の意味が一瞬にして切り変わる。その瞬間が、怖い。			
	1-200	50P (10分)	152-163	2009/01/24 17:52:01

so ☆☆☆☆	友達に進められて読んでみたら結構面白かった。 時代背景をふまえた絵に対する考察が「怖い」を実現していた。			
	1-101,128-151	125P (120分)		2009/01/24 00:12:41

forex ☆☆☆	正直私としてはこの作者の言う怖さを感じ取ることができなかった。この本を真に楽しむためには作者の感性と自己の感性がシンクロする必要があると思った。 しかし、掲載されてる絵は見てみる価値があると思う。奇妙な絵が多いと思うのだが、その分惹きこまれるものがあった。			
	1-43	43P (60分)	なし	2009/01/23 00:15:14

kabadie ☆☆☆☆☆	絵画からはじめて強いメッセージを感じた			
	1-481	481P (240分)	59	2009/01/21 01:04:19

funza ☆☆☆☆☆	絵を鑑賞する際、背後にあるものを知っているとこんなにも感動が違うのか！と思い知らされた。 怖い、しかし読まずにはいられない、知的好奇心に満ちた読書時間でした。			
	1－481	481P (300分)		2009/01/20 12:32:19

上場亮 ☆☆☆☆	とても興味をそそられて、怖いのは苦手だけど楽しめました。			
	全部	481P (360分)		2009/01/14 10:22:33

柴 ☆☆☆☆☆	美術史の授業受けてから絵に興味が出てきたのでかなり楽しかった。２も読みたい！			
	1全部	220P (120分)		2008/12/13 00:27:56

david wright ☆☆☆	こわかった			
	1-30	30P (10分)		2008/12/07 11:25:48

かける ☆☆	絵画を教養としてたしなんだり アートに何らかのかたちで触れたいひとにはよい本かもしれない。 ただ本質的なアートの認識の仕方ではない、と個人的には考えています。 １巻は持っていました。			
	１・２巻	481P (120分)		2008/11/27 12:22:27

・・・からお越しの ☆☆☆☆	期待していたのとは全然違ったがそれでも面白かった。 ただ偶然らしい話を怖いというのもなんだか、ていうか怖くはない。			
	1-35,68-175,202-245	147P (150分)	68-78	2008/11/25 00:27:19

!? ☆☆☆☆	絵の背景がわかるとその絵が違う風に見えて面白かった。エッシャーの絵はびっくりした。			
	下18-150	132P (120分)		2008/11/17 06:14:50

ap ☆☆☆☆	絵の作者の思いとか、当時の時代背景とか、絵の裏にあるものが怖かったです。 いくつかある絵自体がぐろいやつとかは嫌でした。			
	1-101、128-234ページ	205P (180分)	80-89ページ	2008/11/12 21:27:39

snsk ☆☆☆	「怖い絵」は絵が恐ろしいのかと思ったらその奥に潜む理由が怖いということだった。（ところどころ絵自体が怖いものもあったが） 絵だけをぱらぱらと見て興味を持ったものだけつまんで読んでいくのがいいかもしれない。			
	1-245	245P (80分)		2008/11/12 00:34:09

自由教育 ☆☆☆☆	絵の背景にある歴史的要素がおもしろい。絵だけでは知り得ないことを、時代の流行や権力関係などとともに解説されているのがよかった。			
	2巻6-138ページ	133P (60分)		2008/11/10 20:54:25
弟子 ☆☆☆☆	知らなくてもいいのに、何で知らせてしまうの？ 文脈を理解するのは個人に委ねられるべき選択肢であるはずなのに、それを一辺倒に方向を指定してしまうのはどうかと思う。まあ読者自身もそれを意識して呼んでいるのだろうから問題はないのだがそれでも文章の内容を想起しながら絵を見るのとでは解釈が違ってくる。 ただし話し自身はそれ単体としては興味深かった。ガニメーデスとジョン・ベネットをつなげるあたりなんか意外性に飛んでいて感心してしまった。			
	一巻all	246P (100分)	お好きな絵	2008/11/07 12:17:09
kate ☆☆☆☆	絵自体が怖いのではなくてその絵が描かれた背景に恐ろしい出来事があるので、怖い絵を期待している人には向いてないかも…			
	２巻1-246	246P (100分)		2008/11/04 08:33:57
ミニブタぽん ☆☆☆	恐怖というより気づいていなかった不気味さが浮かびあがってくる感じ			
	１巻1－69	69P (90分)		2008/10/30 01:13:08
宅急便 ☆☆☆☆	「本当は怖いグリム童話」のような残虐な意味での「怖い」を想像していたのだが、ここでいう「怖い」の定義はそういうことではないようだ。（その類の話も含まれてはいたけれども。） この本の面白さはそんなことよりも、絵の背景、画家の背景、時代背景を解説してくれることにある。 ヨーロッパ絵画に興味のある人なら読んで損は無い。			
	2巻10-246	237P (120分)		2008/10/18 01:39:58
たくや ☆☆☆☆	ホラー映画とか、心霊とかそういうぞくっとする怖さを期待すると面白くはないと思う。キュクロプスは不気味で怖かったけど 中世やルネッサンス時代背景の説明が興味深かったので☆４つで。			
	１巻10-89 102-113 152-163 234-245	112P (90分)	80-88	2008/10/16 15:17:56
monkiti ☆☆	なんか期待してた内容と全然ちがった			
	下52-84	32P (20分)		2008/10/15 23:23:20

ＴＯＰへ

ハプスブルク家 12の物語

著者名	中野京子	発行年	2008年
出版社名	光文社新書	ページ数	193ページ
値段	980円	ISDN	978-4-334-03469-6
コメント	ハプスブルク。ヨーロッパに君臨した高貴なる青い血。鷲鼻と受け口のこの一族は、スペインとオーストリアの王宮を二大拠点に、15世紀から19世紀までの長い長い期間、各国の王位を独占した。 贅美を尽くした肖像画のなかから、こちらを見つめる王侯たちのまなざしを受けとめつつ、ひとりひとりの人生を訪ねてゆこうという『怖い絵』の作者ならではの趣向。 同族結婚を繰り返し、新しい下賤な血が入るのを拒み続け、どろどろに濃くなってゆく血の果てに生み出されるあまたの虚弱・奇人、そして華やかな美女たちのドラマ。 器量も才能もないのに高貴な青い血だけは受け継いでしまったという苛酷な運命に、王家の人びとがどのように立ち向かったか。シシィことオーストリア妃エリザベート皇后の章が、とりわけ哀切。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
反社会性人格者 ☆	絵がついてるのは結構だが、私的には「死刑執行人サンソン」とは違い、当時の情景をイメージし辛く日本史のようにはいかなかった。			
	1-52	52P (20分)		2009/02/19 22:52:28
鍋工房 ☆☆☆☆	美しい絵画とスリリングな話の展開で、とても楽しく読めた。 歴史の中の人物がとても魅力的に、まるで隣にいるかのように感じられた。 だからだろうか、自分ではどうにもできない大きな運命に巻き込まれたとき、自分の心にどのように決着をつけたらいいのかを深く考えさせられた。			
	全部	193P (190分)		2009/02/19 17:53:43
ketume ☆☆☆	フアナの切ない恋心はかわいそうであるが、それに付き合わされた家臣たちはもっとかわいそうである。			
	38-48	10P (5分)	45,46	2009/02/19 13:18:28
前田 ☆☆☆	まずハプスブルグ家が６５０年も続いていたと初めて知って驚いた 名画もさることながら政略結婚や家族や伯父との結婚、命がけの妊娠など当時の状況が伺い知れた 特にマリーアントワネットの章がおもしろく、意外と悲しい運命のもとに生まれた人なんだなぁとも思った			
	1-193	193P (120分)		2009/02/16 20:50:37
besevener ☆☆☆	あの頃のリアルな部分が伝わってきた。でも嫌いじゃなかった。			
	80-206	126P (45分)		2009/01/17 12:59:09
クマー ☆☆☆☆	有名な絵画がたくさん載ってて眺めてて楽しい。 そのなかで一際異彩を放つアルチンボルドの「合成人面像」。他の絵画が見てて思わず襟を正してしまうようなオーラがあるのに比べ、アルチンボルドの絵はリアリズムの中に巧妙に「遊び」を混ぜ込んでいてすごい。「そういえば江戸時代の絵の中にも人間の体で顔作ってるやつあったなぁ」と思ってたらアルチンボルドの絵の影響で江戸時代の人が描いてたらしい。鎖国しつつも色々影響を受けたり与えたりしてたんだね。			
	1-201	193P (30分)	108-121	2009/01/13 17:38:11

柴 ☆☆☆☆	怖い絵を楽しめた人はこれも楽しめると思う。 かなりドロドロしてるし赤ちゃんが死にすぎだけど、このころの常識とかがわかって勉強になった。 自分の奥さんを次々処刑したり結構残酷な内容が多いけど、王妃が子作りを急かされる感じは今の日本でも変わらないと思ってちょっと悲しくなった。			
	全部	193P (120分)		2008/12/13 00:34:35

マシュ ☆☆☆☆	今まで高校などでも歴史はあまりちゃんと勉強してこなかったがこの本を読んで世界史に興味が持て、もっと知りたいと思った。 こうい時代で自分の家を繁栄させていくには運も影響も大きいとは思うが、優秀は継承者が大事な時代にいたかどうかがとても大きいと思いました。			
	全部	193P (150分)		2008/11/24 20:58:37

ミニブタぽん ☆☆☆	たとえ大帝国の王でも、後継ぎを残すためだけに顎のデカいかっこ良くない人と結婚させられるなんて私は嫌っ！ 家柄にこだわり過ぎた結果の親近婚の末、国が滅びてしまうなんて残酷な話だと思う。			
	1-107	107P (180分)	92-107	2008/11/19 18:15:41

弟子 ☆☆☆	フェリペはエロい みなさんいろいろな絵画が印象に残ったようで。 カラーだからであろう。自分は第二章冒頭の「狂女ファナ」の絵画が頭から離れない。			
	12-78	67P (30分)	絵	2008/11/06 15:29:55

非食用もやし ☆☆☆	とにかく……顎……。 貴族の権力争いがドロドロで繰り広げられている本なんだけど。 途中の顎の絵しか、思い出せない…。			
	12-66	55P (40分)		2008/10/31 21:21:05

ap ☆☆☆☆	名家の政略結婚や権力闘争など、ドロドロした部分が書いてあるので、昼ドラとか好きな人は好きだと思います。 立ち読みポイントにあげた章は、血族結婚の末に家が滅びてしまう、特に恐ろしい場面だと思います。 それ以外にも絵は綺麗だし、戦略で大帝国へとのぼりつめていく様子も、楽しめます。			
	1-201ページ	201P (200分)	92-107ページ	2008/10/23 20:57:18

宅急便 ☆☆☆☆	ヨーロッパの歴史をさらっと勉強できる本。つまりそれだけハプスブルク家がヨーロッパの重要な位置にいたということ。 スペインハプスブルク家が途絶えるまでのどことなく病的な経緯も興味深いが、フリードリヒ二世やマリア・テレジアのような賢帝の話の方が読んでいて気持ちがよい。 その章に掲載されている、11歳のマリア・テレジアの肖像画が大変美人で思わずしばらく見つめてしまった。			
	3-201ページ	199P (120分)	122-137ページ	2008/10/14 23:29:21

ＴＯＰへ

感染地図　－歴史を変えた未知の病原体

著者名	スティーヴン・ジョンソン	発行年	2007年
出版社名	河出書房新社	ページ数	261ページ
値段	2,600円	ISDN	978-4309252186
コメント	1854年、ロンドン、コレラ禍。死神は井戸を伝ってやってきた。 いや、悪いのは空気でしょう、という先入観と科学的精神がいかに戦ったか。 私たちは、つい地図を眺めて「上から目線」でできごとをとらえてしまうけれど、現場を這いずりつつ、地図をつくることから始めた戦いの各シーンがスリリング。 歴史上の１エピソードと片付けず、都市なるものが今後どうなるか、著者はしっかり未来へと視線を向けている。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
世界のニシテツ ☆☆☆	とにかく汚い話が多かった。 どちらかというと綺麗好きな自分もぞっとしてしまう。現代は逆に清潔すぎるとか言うけど、汚いよりはずっとましだと思った。			
	1-90	90P (75分)		2009/02/20 13:04:13
takuto ☆☆	とにかく汚い話題の多い作品ではあったが、不快ではなく楽しく読めた。			
	１－１５０	150P (120分)		2009/02/19 10:49:03
BLOWIN' ☆☆	その昔イギリスではタンを吐くと黒いと聞きました。 このような時期を乗り越えて今の私たちの暮らしがあるんですね。一概に汚いと言ってつっぱねるのはどうかと思います。			
	239-265	27P (30分)		2009/02/16 22:42:49
besevener ☆☆☆	東京とは比べ物にならないくらい汚いなと思った。			
	1－119	119P (90分)		2009/02/09 08:29:06
弟子 ☆☆☆☆	科学などの発展よりもまず先にメディアの発展が成熟を遂げてしまったという、当時のロンドンの状況を克明に描写している点を評価したい。メディアの成熟によって科学的な根拠のない迷信が真っ先に人々の耳に届き、真偽を疑わないままに鵜呑みにしてしまっている点が、現代でも通じるようなところが皮肉的で面白かった。			
	9-90,239-265	109P (45分)	エピローグ	2009/01/27 12:36:53
funza ☆☆☆☆☆	monkitiさんのコメントを読んでからなので、地球温暖化を二酸化炭素のせいだと信じ切っている最近の現状と重ねて読みました。 大変、勉強になりました。			
	1－261	261P (300分)		2009/01/27 12:26:39
heat-active ☆☆☆☆	１９世紀のイギリスの物語ですが、医学がどのように発展していったかが現実感たっぷりに描かれていた。物事は初めはこれだけ大変なのだということを改めて感じた。			
	35-124ページ	90P (45分)	67-89ページ	2009/01/22 21:58:09

クマー ☆☆☆☆	『銃、病原菌、鉄』でも語られていたように病原菌は人類の歴史を変える重要な要因の１つだ。本書では１５０年前のロンドンで起きたコレラの集団感染に対し、ある２人の男がどう考え、戦ったかが「プロジェクトX」さながらに書かれている。 読んでいて映画の『アウトブレイク』を思い出した。 それにしても１９世紀のロンドンは汚すぎだろ。イギリス人の衛生感覚を疑ってしまう…。読んでいて鼻がひん曲がりそうになった。			
	8-277	200P (30分)	239-265	2009/01/14 15:57:21

うみねこ ☆☆☆☆	文章が読みやすい本でした。 いかにいいアイディアがあってもそれを伝える努力をした方が良いと思った。また、見た目や感情ではなく論理的に考える難しさや重要性がわかった。			
	199-222	24P (30分)		2009/01/13 16:52:56

forex ☆☆☆	物語的な部分と評論的な部分が上手く合わさったような文章でとても読みやすかったように感じる。 内容も面白いと感じられるようなところもあったが、この本のテーマ自体にあまり興味がもてなかった。 舞台が外国であることも日本人の私としては実感があまりもてなかった。 ただ、世界史の特にヨーロッパ史に興味のある人は物凄い速度で読み進められるかもしれない。 全体的には可もなく不可もない作品だった気がする、個人的には。			
	1-30	30P (60分)	特に無し	2008/12/12 15:55:14

・・・からお越しの ☆☆☆☆	特に汚くなさそうなところだけ読んでみました。 ジョン・スノーってすごい人だなぁっていうのと昔の医学はやはりいろんな面で今より全然ひどいってことしかわかりませんでした＞＜			
	67-90	24P (30分)	読んだところ	2008/12/09 00:55:59

chicken-run ☆☆☆☆	正直なところ、コレラの歴史やジョン・スノーの活躍なんかよりも、当時のロンドンの衛生環境や都市計画について学ぶ資料として、非常に興味深く、面白い本だと思いました。			
	1-261	261P (150分)		2008/11/10 21:33:56

monkiti ☆☆☆☆☆	‘科学vs人の感覚に訴える迷信‘　という戦いの歴史で、行政が誤った判断をしたために引き起こさなくてもよかった被害を起こしてしまったという話の一例です。この傾向が、今日の地球温暖化やエコって言う言葉が二言目には出てくる今のテレビCMや報道機関の姿勢に類似してるものがあるように思えて、ぞっとする本だと思う。			
	121-216	95P (100分)	中盤	2008/11/04 09:55:21

evolv ☆☆☆☆☆	汚い とにかくこの言葉に尽きると思う。濫読しようにも異臭、異物と不快な物質が立ち並ぶ。どこを抜き取ればいいのかわからなくなっているうちに、すべて読んでしまうそんな素敵な本。 人々の苦労、見たくない、目を背けている事実がこの本にはある。描写も思想も文句のつけようのない完成度。丁寧な書き方、一風変わった視点によりいっそう現実をイメージしやすくなります。 しかし、食前にはおすすめしません。本を開くたびに異臭がしそうだ。			
	1-261	261P (120分)	前半部分	2008/10/24 00:39:23

ＴＯＰへ

暗号解読 上・下

著者名	サイモン・シン	発行年	2007年
出版社名	新潮文庫	ページ数	636ページ
値段	1,219円	ISDN	978-4-10-215972-9
コメント	つくる快感。解く快感。あなたは、どちら側の人間？ おなじみ踊る人形から始まって、鍵を独立宣言に隠したり、エニグマしたり、ナバホ族したり、アリスとボブの公開鍵に、今のはやりは量子暗号。 いやもう、人間ってほんと、カクシゴトが好きなんだなあ、とそのために積み上げられた膨大な努力と叡智の大山脈に惚れ惚れ。あきれつつ縦走ください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ちゃんゆう ☆☆☆☆☆	ちゃんとした暗号の基礎理論や、メカニズムまでしっかりと解説してくれる。取り上げた一つ一つの暗号にまつわる壮大な物語が背景となって、知的興奮を呼び起こされずにはいられない。通信の速度・量ともに暗号の重要性が増し、いまや無意識に暗号文がやり取りされている昨今、こうしてその原点を見つめなおしてみるのも面白い。			
	全部	636P (350分)		2009/02/20 20:26:25
ketume ☆☆☆	久々に物理の世界に触れたが、楽しかった。やはり自分は理系なんだなと思った。			
	228-287	60P (15分)		2009/02/19 12:59:37
かける ☆☆	言語学は好きなのだけれど、伝記的描写で飽きてしまった。			
	とびとび	100P (60分)		2009/02/18 16:06:48
Karagounis fan ☆☆	読んだところが悪かったのか難しかったなぁ・・・ でもとりあえず量子暗号は最強ってことは理解した。			
	下184-287	104P (80分)	下286-287	2009/02/18 10:21:25
kazuki ☆☆	なんとなく読んでみたが難しい。 題材は面白そうなんだけどなぁ・・・			
	95-183	90P (60分)		2009/02/16 14:38:23
&DO ☆☆	ストーリー物は少し読んでもだめですね			
	1-20	20P (15分)		2009/02/10 17:05:56
besevener ☆☆☆☆	非常に興味深いが、長かった。			
	1-200	200P (150分)		2009/02/09 08:00:15
chor ☆☆☆☆☆	暗号は社会科学的に考えてもおもしろい話題ですよね			
	11-190	179P (90分)		2009/02/06 21:41:17

下阪神 ☆☆☆☆	暗号を読むように難しい内容だが面白い。 これを読めば太平洋戦争のときの日本の暗号が解読されたのも少しは納得できた。			
	上全部	340P (180分)	上229-257	2009/02/04 12:28:21

前田 ☆☆☆☆☆	最高にアツい一冊です 全体的には暗号の発達の歴史が書かれているが、その書き方がドキュメンタリーのように解いた・作った時の感動も伝えてるところが面白い理由だと思った 一見すると退屈な学問分野も一生を捧げその発展に貢献した人の物語を聞くとすごいおもしろいものなんだなあと思う 個人的には古代エジプトのヒエログリフの解読が一番おもしろかったのでぜひ読んでみてください			
	1-636	636P (300分)	下29-54	2009/02/01 22:07:12

funza ☆☆☆	世界観に入り込めず、どうしても眠くなってしまいました。		
	1－20	20P (20分)	2009/01/27 12:54:16

ザルカヴァ ☆☆☆☆☆	今まで読んできた本の中で、一番興味を持って読めた。一つ一つの法則がもつ奥深さに、感心させられっぱなしだった。ところどころ図もあり、わかりやすい。しかし、よくまぁこんなに考えたものだ。		
	全部	636P (480分)	2009/01/26 15:14:58

継承者 ☆☆☆	下を読んで結構おもしろかったんで上も。 まあ、上も下も暗号の発展の流れみたいな感じで、暗号に興味がある人はおもしろいかも。		
	1-120	120P (60分)	2009/01/24 00:18:47

非食用もやし ☆☆☆☆	凡人には理解しがたい世界でした。 暗号の鍵がなければほとんどの人はあきらめる以外選択肢はないでしょう。		
	上10-49	40P (50分)	2009/01/07 12:44:51

heat-active ☆☆☆☆☆	最初のページしか読みませんでしたが暗号の起源やどのように発展してきたかが書いてあっておもしろかったです。この暗号を解読する人というのはよほど頭の切れる人なのだなと思いました。			
	上20-125ページ	106P (40分)	53-63ページ	2009/01/02 23:19:53

forex ☆☆☆☆☆	東工大生必読の歴史書だと私は思う。 最初から最後まで一気に読んでしまった。 今回のこのゼミの中で読んだ本でこれほどのめりこんで読んでしまった本はない。 とにかくこの作品の持つスピード感というかなんというか、読者を飽きさせないような構成が素晴らしい。 暗号の歴史の概観がこれほどまでわかりやすく示されているだけでも凄いのに、その暗号解読の過程を追体験できたような感覚に興奮した。 「何の役に立つんだろう？」と思って勉強した物理化学が暗号という領域でこれほどまでの革新性をもたらしていることを知って感慨深い気持ちになった。			
	上1-340ページ、下1-356ページ	696P (480分)	95-183	2008/12/12 16:04:27

クマー ☆☆☆☆☆	暗号を巡る人間ドラマとしても読める上に、暗号技術の歴史的展開をおさらいできる素晴らしい１冊。 第VI章の公開鍵暗号のところは引き込まれて一気に読んでしまった。 p172で引用されているハーディの言葉が重い。 「真の数学は、戦争にはまったく役立たない。数論を戦争に利用する方法は、これまで誰も見出してないのだ」 暗号技術において数論が「実用的」なものであることをハーディが知ったらどう思っただろう。複雑な気持ちがする。 本書を読んでて、20世紀後半以降の暗号技術には素数や量子論などの「ランダム性」が用いられてきているのだなぁと思った。			
	下95-366	150P (80分)	下95-183	2008/11/25 18:18:50

Ian ☆☆☆☆	暗号に安心するのでは無く、常に解読されることを考えなければならないことがわかった。		
	上11-99	89P (80分)	2008/11/23 16:52:04

evolv ☆☆☆☆☆	ルイ１４世の謎の暗号。その解かれ方はあまりにも地道で努力と苦労がにじみ出てくるものだった。暗号のセオリーをすべて覆した作品。もっとも美しい暗号といってもいいかもしれない。たったひとつのキーとなる単語から、数々の例外と戦う姿は、他の学者に通ずるところがある。 その場では、進んだことにも気づかないわずかな進歩の積み重ねを感じさせてくれる本である。			
	1-20,100-230	150P (50分)	170ページ当たり	2008/11/12 00:54:52

弟子 ☆☆☆☆	あとがきから読もうと思って一番最後のページを開いて驚いた。 ゲームの攻略本って好きなんですよね。たとえ自分がやったことのないゲームでも普通に読んでしまう。攻略本を一冊読み終えれば、ゲームやってなくてもなんかそのゲームをクリアした気になれますし、ストーリーなんか全く分からなくてもとりあえず世界を救った英雄気分には浸れます。暇なときは二週目をどうやってクリアしようかとか考え始めたりもします。 そんな自分ですから、こんな本をはじめから読むわけはない。『攻略本』の部分としての補遺から読み始めて読了。無事クリア。暗号は解かれ、世界は救われた。 …（あくまでこういう読み方もありだよという一例として受け取っていただければ幸いです。			
	288-366	79P (20分)	最後	2008/11/06 15:06:50

・・・からお越しの ☆☆☆☆	暗号ってそのもの自体難しいのに その存在をどうやって扱っていくかも難しいのですね。 暗号界の苦悩がよくわかりました。			
	下95-287	193P (270分)		2008/11/04 02:32:18

継承者 ☆☆☆☆	情報化時代での暗号について書かれてて、親しみやすかった。 巻末には暗号の紹介のようなものが。			
	下184-302	118P (90分)	なし	2008/10/28 02:15:57

マシュ ☆☆☆☆	大昔のヨーロッパの戦争から第一次世界大戦や第二次世界大戦まで、世界の歴史の様々なところで登場しており、その暗号が解けたか解けなかったかで世界が違っていたかと思うと、暗号の奥深さを感じることができた。			
	上巻11-340、下巻9‐314	636P (420分)		2008/10/25 00:31:26

ＴＯＰへ